ONKYO®

5.1chホームシアタースピーカーパッケージ

HTP-L3

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

● 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐにサブウーファーの電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

● サブウーファーの裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

● サブウーファーやサテライトスピーカーを分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

● サブウーファーを使用できるのは日本国内のみです。

● 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

● サブウーファーの通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。サブウーファーには内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次の点に気を付けてご使用ください。

- サブウーファーを逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- サブウーファーを、押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- テーブルクロスをかけたり、布団の上に置いて使用しないでください。
- サブウーファーを設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない

● 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

● 本製品は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

オーディオ機器の正しい使いかた

⚠警告

■ 水の入った容器を置かない

● 本製品の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

● サブウーファーの通風孔から金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、本製品の内部に水や異物が入った場合は、すぐにサブウーファーの電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

● 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードがサブウーファーの下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますので、ご注意ください。

● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、誤って本製品を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触禁止

● 雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

● 強度の足りない台やぐらついたり、傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

● 本製品の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

● 本製品の上にものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

● 移動させる場合は、サランネットやスピーカーユニットに手をかけないでください。故障やけがの原因となることがあります。

● 移動させる場合は、電源スイッチを切り、接続コードやスピーカーコードをはずしてから行ってください。落下や転倒など、思わぬ事故の原因となることがあります。

● 壁はその材質、また桟などの位置により、ネジの保持強度に大きな差が出ますので、取り付けに際しては十分にご注意ください。（専門の業者にご相談ください。）

■ スピーカーコードは安全な場所へ

● スピーカーコードの配線された位置によってはつまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。スピーカースタンドを使用した場合や高い所に置いた場合、壁に掛けた場合など、特にご注意ください。

■ 次のような場所に置かない

● 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

● 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 使用上の注意

● 電源を入れたときは、音量に注意してください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

● 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。

● 音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

● サブウーファーに乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

● キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

オーディオ機器の正しい使いかた

⚠注意

■ 接続について

● 本製品を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

● 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

● ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

● 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ず、プラグを持って抜いてください。

● 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 旅行などで長期間、本製品をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

● 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードやスピーカーコードなど外部の接続コードをはずしてから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■スピーカーコードについて

● スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

● お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

● 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
製品の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。

● 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

● シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本製品にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

取り扱いについて

■ お手入れについて

本製品の表面は時々柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤をうすめた液に、柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものは、ご使用にならないでください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。
サランネットにほこりがついたときは、掃除機で吸い取るか、ブラシをかけるとよくほこりをとることができます。

■ カラーテレビやパソコンとの近接使用について

一般にカラーテレビやパソコンに使用されているブラウン管は、地磁気の影響さえ受けるほどデリケートなものですので、普通のスピーカーを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生します。
本製品は（社）電子情報技術産業協会の技術基準に適合した防磁設計を施していますので、テレビなどとの近接使用が可能です。ただし、設置のしかたによっては色むらが生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15分～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残る場合はスピーカーをテレビから離してください。また、近くに磁石など磁気を発生するものがあると本製品との相互作用により、テレビに色むらが発生する場合がありますので設置にご注意ください。

ご注意

テレビなどの近くに置く場合、テレビから出ている電磁波の影響でサブウーファーの電源を切っていてもスピーカーから雑音を発生することがあります。この雑音が気になる場合は、テレビからさらにスピーカーを離してご使用ください。

■ 取り扱い上のご注意

本製品は通常の音楽再生では問題ありませんが、次のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故のおそれがありますのでご注意ください。
① FMチューナーが正しく受信していないときのノイズ
② 発信器や電子楽器等の高い周波数成分の音
③ オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
④ マイク使用時のハウリング
⑤ テープレコーダーを早送りしたときの音
⑥ アンプが発振しているとき
⑦ ピンコードなど､接続端子の抜き差し時のショック音

■ 使用上のご注意

アンプのトーンコントロールやグラフィックイコライザー等で低域を極端にブースト（増強）したり、低域が異常に強調された特殊なソースを再生した場合、本来の信号以外に異常な音が発生する場合があります。これはスピーカーユニットの限界を超えた時に発生する「ばた付き」が起こっているためで、故障ではありません。
しかし、このような状態でご使用になると、スピーカーユニット破損の原因となりますので音量を下げてご使用ください。

特長

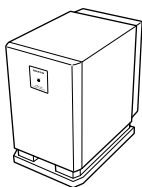
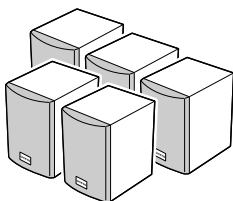
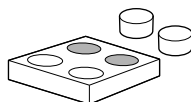
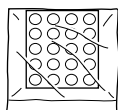
■ 超低域再生専用アンプ内蔵サブウーファーシステム

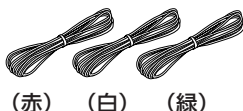
■ カットオフフィルターを内蔵、お手持ちのシステムに本機を加えるだけで、雄大な低音再生が実現可能

■ サテライトスピーカーには当社が独自開発したOMF（Onkyo Micro Fiber）ダイヤフラムを使用。また、スピーカーキャビネットには硬度が高く響きの良いMDF（Medium Density Fiberboard）を採用

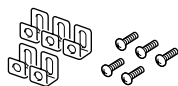
付属品について

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。（　）内の数字は数量を表わしています。

● サブウーファー
（SKW-10）（1）

● サテライトスピーカー
（D-L1X）（5）

● サブウーファー用
コルクスペーサー（一組＜4個＞）

● サテライトスピーカー用
コルクスペーサー（一組＜20個＞）

● スピーカーコード（左右フロント/センター用）2.5m（3）

（赤）　（白）　（緑）

● スピーカーコード
（サラウンド用）8m（2）

（青）　（灰）

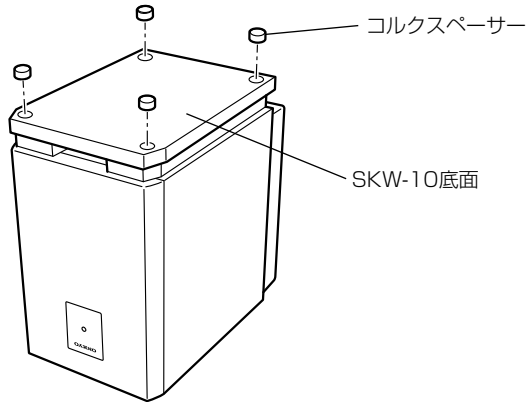
● スピーカー金具（5）
● 壁掛けネジ（5）

● 接続用（モノラル）ピンコード（1）

● 取扱説明書（本書1）
● 保証書（1）

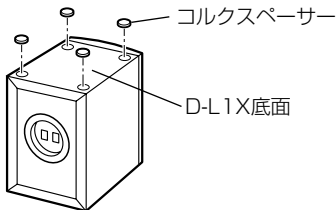
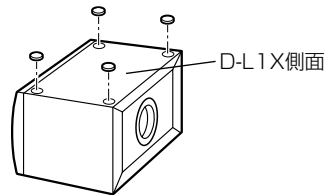
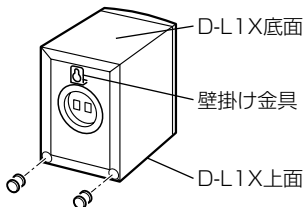
ご注意

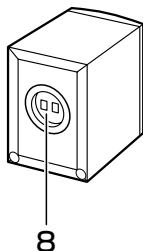
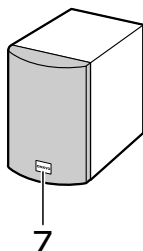
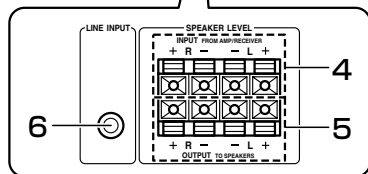
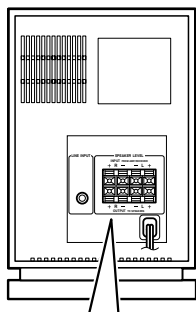
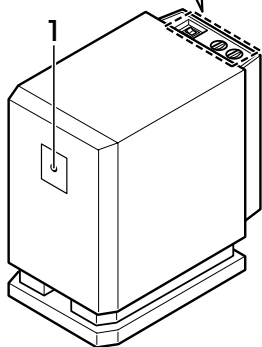
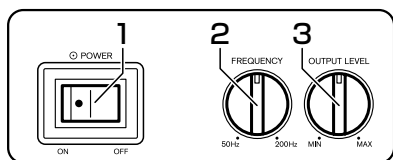
HTP-L3は、サブウーファー（SKW-10）とサテライトスピーカー（D-L1X）の組み合わせで最良の状態になるように設計されております。本体と他のスピーカーとの組み合わせや、他のサテライトスピーカーとの組み合わせでご使用になった場合の故障については、保証できない場合がありますのでご了承ください。

■サブウーファー（SKW-10）用コルクスペーサーの使いかた

よりよい音でお楽しみいただくために、付属のコルクスペーサーのご使用をおすすめします。
また、コルクスペーサーを使用することで、すべりにくく安定して設置することができます。

■サテライトスピーカー（D-L1X）用コルクスペーサーの使いかた

よりよい音でお楽しみいただくために、付属のコルクスペーサーのご使用をおすすめします。
また、コルクスペーサーを使用することで、すべりにくく安定して設置することができます。

たて置きの場合

横置きの場合

壁に掛けて使用する場合

サテライトスピーカーを壁に掛けて使用する場合は、サテライトスピーカーの上下を逆にして使用します。
スペーサーは2枚重ねて2ヶ所に貼ってください。
（付属の壁掛け金具の説明書をよく読んで使用してください。）

各部の名称と働き

1. 電源スイッチ(POWER)およびインジケーター
ON側に押すと電源が入り、インジケーターが点灯します。反対側を押すと電源が切れ、インジケーターも消灯します。

2. カットオフ周波数調整ツマミ(FREQUENCY)
高域をカットする周波数を変えるツマミです。組み合わせるスピーカーシステムに合わせて、50Hz～200Hzの範囲で連続的に変化できます。

3. 音量調整ツマミ(OUTPUT LEVEL)
サブウーファーの再生音量を調整するツマミです。

4. スピーカーレベル入力端子 (INPUT FROM AMP/RECEIVER)
アンプまたはレシーバーのスピーカー出力端子と接続する端子です。

5. スピーカーレベル出力端子 (OUTPUT TO SPEAKERS)
スピーカーレベル入力端子に入力された音が出力されます。スピーカーの端子と接続します。

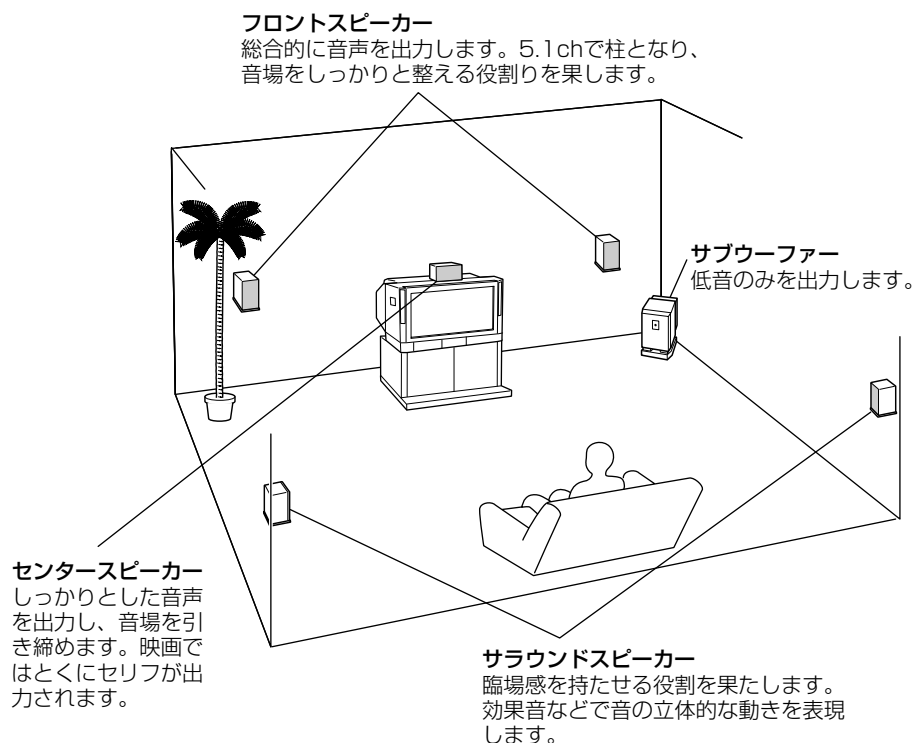
6. ライン入力端子 (LINE INPUT)
アンプなどのサブウーファー出力を接続する端子です。

7. バッジ (オンキヨーロゴプレート)
D-L1Xを壁掛け金具を使って設置するときや横置きで使うときは、このバッジを回転させることができます。

8. スピーカー端子
アンプのスピーカー端子と接続します。

ホームシアターとは

■ ホームシアターで楽しもう

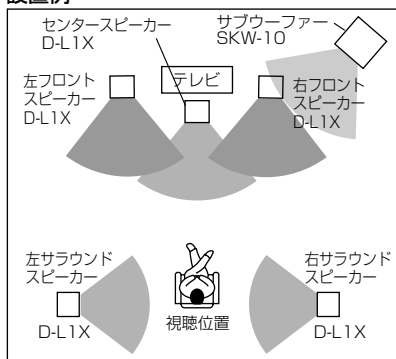
HTP-L3を使って音の立体感、移動感を表現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。（5.1chサラウンド再生）
サテライトスピーカーはすべて同じ性能です。2本をフロントスピーカー(L、R)、1本をセンタースピーカー、2本をサラウンドスピーカー(L、R)として使用します。

ご注意

- 本製品のキャビネットは木工製品ですので、温度や湿度の極端に高いところや低いところは好ましくありません。直射日光の当たる所や冷暖房機具の近く、浴室や台所の近くなど、湿気の多いところは避けてください。
- 振動や傾斜のないしっかりとしたところに置いてください。
- レコードプレーヤーやCDプレーヤーのそばでサブウーファーを使用したとき、ハウリングや音飛び現象が起こることがあります。そのときはプレーヤーとサブウーファーの距離を離すか、サブウーファーの音量を下げてお使いください。
- サテライトスピーカーを設置する際には、机やラックの端に置かないようにしてください。落ちたり、倒れたりして、ケガの原因となることがあります。

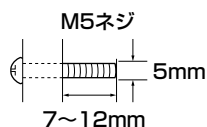
スピーカーの配置のしかた

基本的な設置例と各スピーカーの役割

スピーカーの設置方法は、部屋の大きさや壁の材質などによっても違ってきますが、ここでは基本的な配置例と各スピーカーの役割を紹介します。

設置例

市販のスタンドや金具を使用する場合

サテライトスピーカーの背面にはM5用ネジ穴1個、底面にはピッチ60mmでM5用ネジ穴を2個設けています。底面を固定する場合は、市販のスタンドや金具を使用してください。

スタンドや金具をご使用になるときは、スタンドの厚みを考慮して有効ネジ長が7～12mmのものをご使用ください。

センタースピーカー

できるだけ画面の近くに配置します。視聴者の耳に向くように配置してください。
センタースピーカーは、左右フロントスピーカーの音源効果や、音の動きを明確にして、より豊かなサウンドイメージを作ります。映画では特にここからセリフが聞こえます。

左右フロントスピーカー

視聴者の前方に配置します。
- センタースピーカーとなるべく同じ高さになるように配置してください。
- 音楽や映画を鑑賞する位置と姿勢で、視聴者の耳に向くように配置してください。左右対称が理想です。

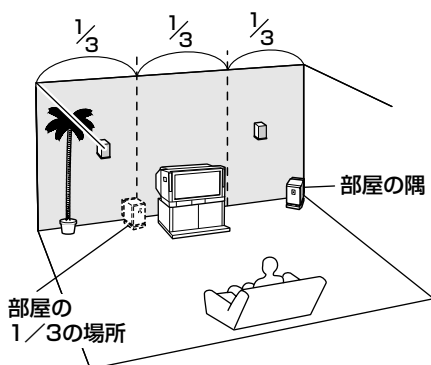
サラウンドスピーカー

視聴者の横または後に配置します。
音の立体的な動きを表現し、背景をイメージした環境音、また場面を盛り上げる効果音を作り出して臨場感を高めます。

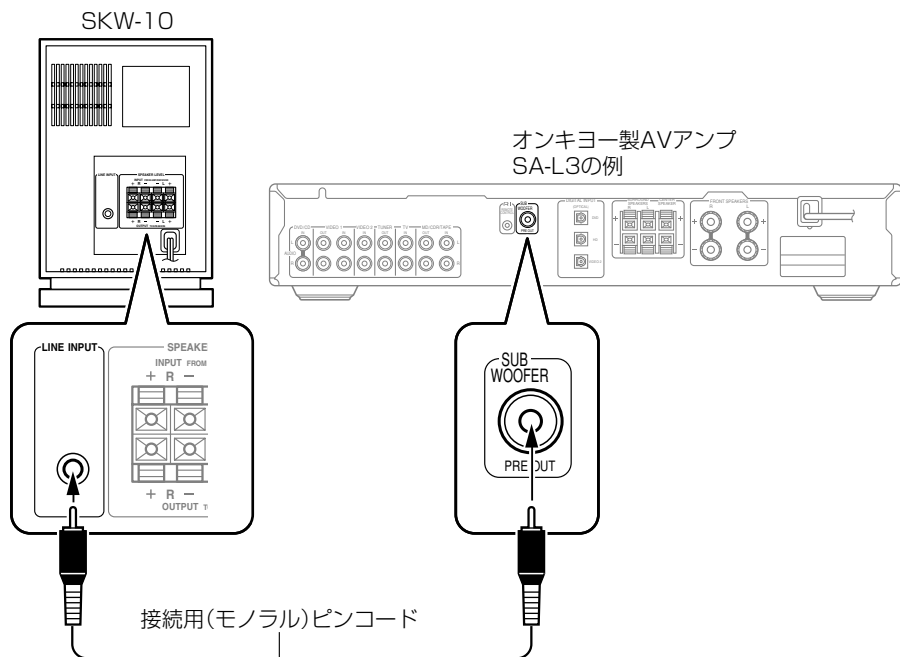
サブウーファー

迫力のある重低音効果を最大限に発揮します。低音のみを出力します。
再生される低音の質や量はサブウーファーの置き場所によって大きく変わります。また、部屋の形状やどの位置で聞くかによっても変わります。一般的に部屋の隅、または部屋の1／3の場所に置いたとき、良い結果が得られます。
置き場所を決める方法として以下の方法をおすすめします。
- 質の良い低音が入った映画または音楽ソースを再生する。
- 本機を部屋の色々な場所に置いてみる。
- 置き場所により様々な鳴り方をするので、いつも聞く位置でもっともしっかりした低音が再生できる場所を選ぶ。

接続のしかた

全ての接続が終わるまで本機および他の機器の電源は切っておいてください。

AVアンプにサブウーファー(SKW-10)を接続する

サラウンド再生機能のついたアンプやレシーバーと組み合わせる場合は、必ずサブウーファープリアウト端子(SUB WOOFER PREOUT)または相当する端子から付属の接続用(モノラル)ピンコードで本機に接続してください。スピーカーコードを使って本機を接続すると、アンプやレシーバーの設定によっては十分な低域がでないことがあります。詳しい接続方法はお手持ちのアンプやレシーバーの取扱説明書をご覧ください。アンプにサブウーファープリアウト端子がない場合は、15ページをご覧ください。

ここでは、オンキヨー製AVアンプSA-L3を例に説明しています。

お知らせ

オンキヨー製AVアンプ SA-L3 との組み合わせでご使用になる時は

SA-L3との組み合わせでご使用になるときは、下記のセッティングでバランスが取れるようになっています。SA-L3の取扱説明書もご覧になり、調整してください。

AVアンプSA-L3

- サブウーファーモード：SUBWOOFER MODE1にする。(全てのサテライトスピーカーの低音をサブウーファーから出す設定です。)
- 各スピーカーの音量バランス：全てのスピーカー(LEFT/CENTER/RIGHT/SURR RIGHT/SURR LEFT/SUBWOOFER)の音量レベルを「0」にする。

サブウーファーSKW-10

- 音量調節ツマミ(OUTPUT LEVEL)：中央付近
- カットオフ周波数調整ツマミ(FREQUENCY)：中央付近

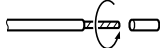
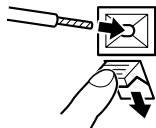
あとは、部屋の状況や各スピーカーのセッティング位置、お聞きになる位置または、お好みに合わせて調整してください。

接続のしかた

AVアンプにサテライトスピーカー(D-L1X)を接続する

サテライトスピーカー（D-L1X）はすべて同じ性能です。3つを左右フロントスピーカーとセンタースピーカーとして、2つを左右サラウンドスピーカーとして使用します。

- 付属のスピーカーコードの色が入っている方をD-L1Xのプラス(＋、赤色)側に接続してください。
- スピーカー(D-L1X)のプラス(＋、赤色)とアンプのプラス(＋)、スピーカーのマイナス(－、黒色)とアンプのマイナス(－)を接続します。
- プラス(＋)とマイナス(－)を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると、音声が不自然になりますのでご注意ください。

1.ビニールカバーをはずしスピーカーコードの芯線部をよじります。

2.スピーカー端子のレバーを押しながらコードの先端を奥までしっかりと差し込みます。

3.指を離すとレバーが戻ります。
スピーカーコードを軽く引っ張ってみて確実に接続されているかどうか確認してください。

D-L1X
フロントスピーカー
右（R）

D-L1X
センタースピーカー

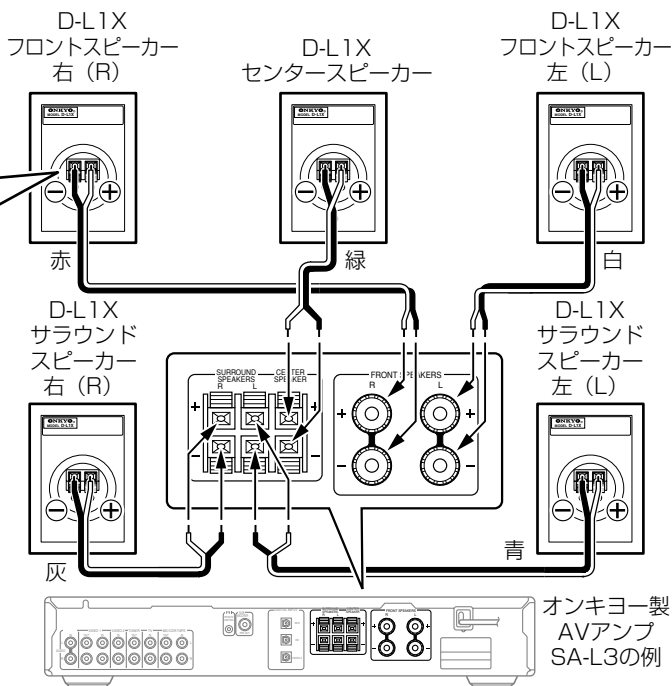
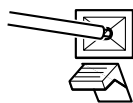
D-L1X
フロントスピーカー
左（L）

赤　緑　白

D-L1X
サラウンド
スピーカー
右（R）

D-L1X
サラウンド
スピーカー
左（L）

SURROUND SPEAKERS R L　CENTER SPEAKER　FRONT SPEAKERS R L

灰　青

オンキヨー製
AVアンプ
SA-L3の例

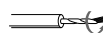
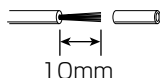
危険

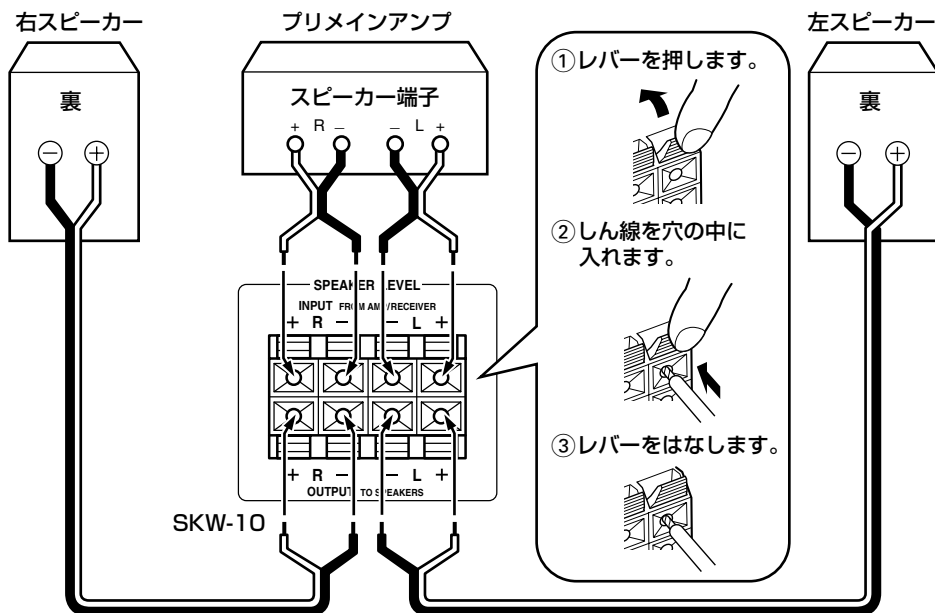
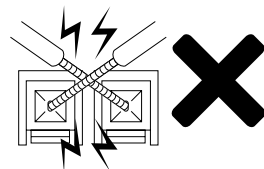
回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスあるいはL/Rを絶対に接触させないでください。

スピーカーレベル入出力端子の使いかた

サブウーファープリアウト端子の付いていないアンプを接続したいときに、アンプのスピーカー端子とサブウーファーのSPEAKER LEVEL INPUT端子を接続し、今までアンプにつないでいたスピーカーをサブウーファーのSPEAKER LEVEL OUTPUT端子に接続することができます。接続コードは付属しておりませんので、別途ご用意ください。

①スピーカーコードのビニールカバーの先を外します。

②しん線をよじります。

1. スピーカーコードを使用して、本機のスピーカーレベル入力端子とアンプのスピーカー端子を接続します。
2. 左右のスピーカーは本機のスピーカーレベル出力端子に接続します。

ご注意

- スピーカーコードの＋/－、L（左）R（右）を間違えないように確実に接続してください。＋/－を間違えますと低音感が損なわれます。
- 本機のスピーカー出力端子にスピーカーを接続する場合は、本機のスピーカーレベル入力端子に接続するアンプの表示より低いインピーダンスのスピーカーをつなぐと故障の原因となります。
- スピーカーコードの接続は、しん線部が隣の端子や金属部に触れていないかよく確認してください。接触したまま動作させるとアンプの故障の原因となります。
- BTL接続のアンプはご使用にならないでください。アンプ、本機とも故障の原因となります。一般のアンプはBTLではありません。詳しくはご使用になるアンプの取扱説明書をご参照ください。

サブウーファー(SKW-10)の調整について

■ 音量調整ツマミ(OUTPUT LEVEL)

サブウーファー(SKW-10)をライン入力端子(LINE INPUT)を使用してアンプと接続した場合は、組み合わせるアンプに合わせて音量調整をしてください。超低音は、刺激が少ないため、つい音量を上げすぎる可能性があります。少し控えめ程度がちょうど良いバランスになります。
スピーカーレベル入力端子(SPEAKER LEVEL)を使用し、ステレオ再生する場合は、音量調整ツマミの中央付近で一般的なスピーカーと音量バランスが取れるようになっています。
映画などの5.1ch再生の場合は、中央より上げる（右へ回す）必要があります。

ご注意

アンプの音量を常識を超えるほど大きくすると故障の原因になりますのでご注意ください。また、接続するアンプによってはスイッチ類を切り換える時、ノイズを発生することがあります。このノイズはスピーカーを破損する原因にもなりますので、スイッチ類を操作する時は、アンプの音量を小さくしてから切り換えるようにしてください。

■ カットオフ周波数調整ツマミ(FREQUENCY)

中央付近にしてください。

ヒント

D-L1Xとのセットでご使用にならない場合は、スピーカーに合わせて周波数を選んでください。組み合わせるスピーカーが大型の場合は、スピーカーが低い周波数まで再生できるため、カットオフ周波数を低く設定してください。小型のスピーカーの場合は、サブウーファーで高い周波数まで再生させるために、カットオフ周波数を高く設定してください。実際に音を聞きながら、バランス良く聞こえるカットオフ周波数を選んでください。

♪音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分にしましょう。
特に静かな夜間には音量を下げてききましょう。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

困ったときは

電源が入らない

- サブウーファーの電源プラグがコンセントから抜けていませんか？
- サブウーファーの電源プラグをコンセントから抜き5秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。

音が出ない

- サブウーファーの電源は入ってますか？POWERインジケーターは点灯していますか？
- 本機のボリュームが最小（MIN）になっていませんか？
- 接続しているアンプやレシーバーにヘッドホンを接続していませんか？また、消音状態になっていませんか？
- 接続したレシーバーやアンプ側はサブウーファーが働くように設定されていますか？
- サブウーファーのスピーカーレベル入力端子を使って接続しているときに、スピーカーコードが正しく接続されていますか？しん線は本体の接続端子に接触していますか？

音が良くない/雑音が入る/低音が出にくい

- カットオフ周波数が低すぎませんか？カットオフ周波数を下げると超低音のみ再生されますので、聞こえにくくなります。サブウーファーのFREQUENCYツマミで周波数レベルを上げてみてください。
- 接続用（モノラル）ピンコードのプラグは奥まで差し込んでください。
- テレビなど強い磁気を帯びたものの影響をうけることがあります。テレビと本機を離してください。
- 低音が入っていないソースを再生している場合、本機から出る音が小さく感じます。
  低音が入っているソースを再生してください。
- スピーカーコードの＋/－が正しく接続されているかご確認ください。

テレビ映像の色がにじむ

- テレビからスピーカーを離してください。

主な仕様

■SKW-10（サブウーファー）

形式	アンプ内蔵 Jドライブ型
用途	超低域再生専用
定格周波数範囲	35Hz～200Hz
クロスオーバー周波数	50Hz～200Hz(可変)
実用最大出力	40W（4Ω・EIAJ）
入力インピーダンス	スピーカー入力：4.7kΩ ライン入力：65kΩ
入力感度	スピーカー入力：1.8V ライン入力：100mV
使用スピーカー	16cmOMFウーファー
電源	AC100V(50/60Hz)
消費電力	30W
外形寸法(W×H×D)	190×299×312mm
質量	7.6kg
その他	防磁対応（EIAJ）

■D-L1X（サテライトスピーカー）

形式	フルレンジ密閉型
定格周波数範囲	125Hz～25kHz
最大入力	30W
定格インピーダンス	6Ω
定格感度レベル	83dB/W/m
使用スピーカー	8cm OMFスピーカー
外形寸法(W×H×D)	85×120×112mm
質量	各0.7kg
その他	防磁対応（EIAJ）

※ 仕様および外観は性能向上のため予告なく変更することがあります。

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または当社サービスステーションにご依頼ください。
詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

当社では、本機の補修用性能部品を製造打ち切り後、最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。

修理を依頼される時は、下の事項を販売店または当社サービスステーションまでお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名　HTP-L3
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

お客様ご相談窓口	カスタマーセンター　受付　9:30～17:30　(土日祝、弊社休日除く) ■カタログのご請求、製品についてのご相談 ＊e-mail：ホームシアター/オーディオ製品→customer@onkyo.co.jp マルチメディア製品　→mmcadmin@onkyo.co.jp ＊TEL：ナビダイヤル　0570-01-8111(全国どこからでも市内料金で通話いただけます) または072-831-8111(携帯電話、PHSから)へどうぞ。 ＊FAX：072-831-8124　〒572-8540　大阪府寝屋川市日新町2-1

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページへ→http://www.onkyo.co.jp

快適なオーディオライフをお手伝い。ネットショップへ→http://www.e-onkyo.com

修理窓口　修理のご依頼は取扱説明書の「困ったときは」の項目をご確認のうえご依頼ください。転居されたり、贈物でいただいたものの故障でお困りの場合は、下記へご相談ください。

北海道地区
札幌サービスステーション
TEL 011-747-6612　FAX 011-747-6619
〒001-0028　札幌市北区北28条西5-1-28
トーシン北28条ビル

青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島地区
仙台サービスステーション
TEL 022-297-0571　FAX 022-257-7330
〒984-0051　仙台市若林区新寺4-9-5
第二丸昌ビル 1F

栃木地区
宇都宮サービスステーション
TEL 028-634-4307　FAX 028-634-4308
〒320-0831　栃木県宇都宮市新町2-7-7

群馬・埼玉・新潟地区
大宮サービスステーション
TEL 048-651-8612　FAX 048-651-9137
〒330-0034　埼玉県さいたま市土呂町2-29-2
高安ビル 1F

千葉・茨木地区
千葉サービスステーション
TEL 043-296-3915　FAX 043-296-3912
〒262-0033　千葉市花見川区幕張本郷5-2-11

東京(23区)地区
東京サービスセンター
TEL 03-3861-8121　FAX 03-3861-8124
〒111-0054　東京都台東区鳥越1-2-3 ハマスエビル

東京(23区を除く)・山梨・長野地区
八王子サービスステーション
TEL 0426-32-8030　FAX 0426-36-9312
〒192-0914　東京都八王子市片倉町358番地

神奈川地区
横浜サービスステーション
TEL 045-322-9342　FAX 045-312-6603
〒220-0072　横浜市西区浅間町1-13　共益ビル5F

岐阜・静岡・愛知・三重地区
名古屋サービスステーション
TEL 052-772-1229　FAX 052-772-1331
〒465-0013　名古屋市名東区社口1丁目1001番

富山・石川・福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山地区
大阪サービスセンター
TEL 06-6576-7620　FAX 06-6576-7604
〒552-0013　大阪市港区福崎3丁目1番148号

鳥取・島根・岡山・広島・山口(下関を除く)地区
広島サービスステーション
TEL 082-262-3315　FAX 082-262-6571
〒732-0057　広島市東区二葉の里2-8-28

徳島・香川・愛媛・高知地区
高松サービスステーション
TEL 087-868-5662　FAX 087-868-5672
〒760-0079　高松市松縄町44-8　西原ビル1F

山口(下関)・福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄地区
福岡サービスステーション
TEL 092-418-1357　FAX 092-418-1358
〒812-0006　福岡市博多区上牟田3-8-19
みなみビル202

オンキヨーサービス認定店

静岡サービス認定店
TEL 0543-46-6502　FAX 0543-46-7091
〒424-0063　静岡県清水市能島171-15

北陸サービス認定店
TEL 0776-27-1868　FAX 0776-27-1768
〒910-0001　福井県福井市大願寺3-5-9

岡山サービス認定店
TEL 086-274-5840　FAX 086-274-5840
〒703-8271　岡山県岡山市円山13

熊本サービス認定店
TEL 096-364-1475　FAX 096-364-1475
〒862-0970　熊本県熊本市渡鹿7-15-18

沖縄サービス認定店
TEL 098-876-9195　FAX 098-876-9195
〒901-2104　沖縄県浦添市当山558番地の8
キャッスルサイド浦添102号

2002年6月現在　お客様相談窓口、修理窓口の名称、住所、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。

ご購入されたときにご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.　　　(　　)

メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

http://www.onkyo.co.jp/

製品の故障や修理についてのお問い合わせ先：
お買い上げの販売店もしくは、「オンキヨーご相談窓口·修理窓口のご案内」記載の最寄りのサービスステーションへお申し出ください。

●東京サービスセンター　☎ 03(3861)8121　●大阪サービスセンター　☎ 06(6576)7620

SN 29343371

G0205-1